

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科：数学 科目：数学A 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 1組～7組

教科担当者：

使用教科書：（数研出版 高等学校数学A）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
 【思考力、判断力、表現力等】・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し【学びに向かう力、人間性等】たりしようとしている。
 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
【知識及び技能】 ・場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	・場合の数と確率	【知識・技能】 ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象の場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	25
定期考査			○	○		2
【知識及び技能】 ・図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力などに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	・図形の性質	【知識・技能】 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	20
定期考査			○	○		2
【知識及び技能】 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	・数学と人間の活動	【知識・技能】 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発掘させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1
						合計
						70

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書：（ 数研出版 高等学校数学Ⅱ ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
 ・ 事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論議に基づいて判断したりしようとしている。
 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び積分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	担当 時数
1 学期	【知識及び技能】 いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。	・式と証明 ・複素数と方程式 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・二次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 ・複素数系まで拡張する虚数を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ・二次方程式の解の判別及び解と係数の関係について理解している。 ・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・式計算の方法を根拠に学習した数式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象をいろいろな式で表現し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論議に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。	・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・知識を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。 ・座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 ・軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ・教員と図形との関係について、不等式の範囲を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思考・判断・表現】 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 ・教員と図形との関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどしている。 ・問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論議に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	27
定期考査			○	○		1	
2 学期	【知識及び技能】 三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。	・三角関数 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角の表し方について理解している。 ・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解している。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解している。 【思考・判断・表現】 ・三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 ・三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 ・二つの数値の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論議に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	27
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 指数関数・対数関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。	・指数関数と対数関数 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・指数や対数の概念から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な数の計算をすることができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 ・指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。 ・指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 ・二つの数値の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論議に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	○	○	○	27
定期考査			○	○		1	

3 学 期	【知識及び技能】 微分・積分の考えについての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解決したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、図形平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、問題関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を求めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	・微分法と積分法 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 ・導関数を用いて関数の傾斜や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解している。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・関数とその導関数との関係について考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を求めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	34
	定期考査			○	○		1
							合計 140

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科：数学 科目：数学B 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組 理系選択

使用教科書：（数研出版 高等学校 数学B）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【思考力、判断力、表現力等】離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 A 等差数列 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 ・クリアー 数学Ⅱ+B+C ・一人1台端末の活用 等 	【知識・技能】 数列の定義、表記について理解している。 【思考・判断・表現】 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	○	○	○	5
	B 等比数列 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 4 等比数列 5 等比数列の和 ・クリアー 数学Ⅱ+B+C ・一人1台端末の活用 等 	【知識・技能】 初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 【思考・判断・表現】 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等比中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	第2節 いろいろな数列 C いろいろな数列 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 D 階差数列 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・和の記号 階差数列 いろいろな数列の和 ・クリアー 数学Ⅱ+B+C ・一人1台端末の活用 等 	【知識・技能】 記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。階差数列利用、和Sn利用では、初項の扱いに注意して一般項が求められる。 【思考・判断・表現】 和Σrkについて、既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち、自然数の3乗の和の公式を導こうとする。数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。	○	○	○	8
	第3節 漸化式と数学的帰納法 A 漸化式 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 B 数学的帰納法 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・漸化式 ・クリアー 数学Ⅱ+B+C ・一人1台端末の活用 等 	【知識・技能】 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 【思考・判断・表現】 複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 自然数に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。 数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積 ・クリアー 数学Ⅱ+B+C ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 同時分布の意味を理解し、2つの確率変数の同時分布を求めることができる。 試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 【思考・判断・表現】 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることよきに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに関心しながら導こうとする。	○	○	○	10	
	定期考査			○	○		1	
2 学 期	第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測 確率変数の期待値と分散 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	二項分布 正規分布 母集団と標本 標本平均の分布 推定 仮説検定 ・クリアー 数学Ⅱ+B+C ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 標準正規分布に従う確率変数Zについての確率を求めることができる。 復元抽出と非復元抽出について理解している。 標本平均が確率変数であることを理解している。 【思考・判断・表現】 具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の定義から導こうとする。 連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。 母集団や標本の特徴を理解しようとする。	○	○	○	18	
	定期考査			○	○			1
3 学 期	第3章 数学と社会生活 社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解するとともに、日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知り、積極的に数学を活用する姿勢を培う。	数学を活用した問題解決 社会の中にある数学 変化をとらえる～移動平均～ 変化をとらえる～回帰分析～	【知識・技能】 日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解している。 選挙における議席の割り振り方を理解し、与えられた手順通りに割り振ることができる。 回帰直線を利用して、観測していないデータを予測することができる。 【思考・判断・表現】 問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察し、別の仮定を立てて考察することができる。 議席の割り振り方について、議席総数を変更したときの変化に注目し、その特徴を考察できる。 周期的に増減するデータで移動平均を考える場合は、その目的によって適切な範囲での移動平均を考えることが重要であることを、その理由とともに理解している。 最小2乗法を用いて、回帰直線の方程式を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会生活における問題について、学んだ方法を積極的に活用し、主体的かつ対話的に問題を解決しようとする。 社会生活で用いられている数学に興味をもち、自らそれを探したり考察したりしようとする姿勢を培う。	○	○	○	9	
	定期考査			○	○		1	
							合計	70